

ウクライナ 継続支援を 派遣看護師ら報告

AMDA

ロシアの侵攻で隣国ハンガリーに避難したウクライナ人を支援する国際医療ボランティア・AMDA（岡山市北区伊福町）の活動報告会が20日、同市内で開かれた。侵攻開始から約5カ月。ハンガリーで活動した看護師らは「日本を含め各国で関心が薄らいでいるように感じる。継続的な支援が必要だ」などと訴えた。

報告した看護師は、岡山市出身でオランダ



ウクライナ支援活動を報告する（左から）榎田さん、長谷さん、光井さん

在住の榎田倫道さん（41）と、赤磐市在住の長谷奈苗さん（27）。ハンガリーの国立大医学部で学ぶ津山市出身、光井一輝さん（26）らも同席した。

AMDAは同国東部のベレグスラーニーなどで活動。受け入れ施設ではボランティアが

減り、ストレスなどから体調不良を訴える避難民が減らない一方、届けられる支援物資は減っていることなどを報告。3人は「ウクライナの人から『私たちが忘れないで』と言われた」「海の向こうの出来事と思わず、関心をもち続けてほしい」

などと話した。

AMDAによると、ハンガリーにいる避難民は約95万人（12日現在）。これまでに医師、看護師ら12人を派遣。現在も2人が活動している。（杉本明信）